

日本農業気象学会 2011 年度第 3 回理事会議事録

日 時：9 月 10 日（土）9:00～12:00

会 場：北海道農業研究センター本館 1 階ミーティングルーム
（北海道札幌市豊平区羊ヶ丘 1）

出席者：岡田益己、小林和彦、青木正敏、小沢聖、菅野洋光、町村尚、皆已 幸也、廣田
知良、平野高司、五十嵐大造、吉本真由美、北野雅治、松島大

欠席者：大政謙次、林真紀夫、富士原和宏、荊木康臣、横山仁、黒瀬義孝、中屋耕、松岡
延浩、菅谷博、林 陽生、佐々木華織

[議事録確認]

1. 2011 年度第 2 回理事会議事録報告（資料 1）

承認された。

[報告・連絡事項]

1. 編集委員会報告（資料 2）

北野編集委員長より、学会誌の発行状況と論文の審査状況、学会誌の版組システムの MS-Word への変更の試行、オンライン投稿審査システムの移行について報告があった。また、オンライン投稿審査システムのアドレス変更に伴う投稿規程の改定案が示され、承認された。却下の割合の多さ（JAM1 件、生物と気象 2 件）について、岡田会長より、厳しすぎて他ジャーナルに逃げることもあるので、深慮が必要との意見があげられた。

ISI 登録に向け具体的に進める必要あり。ISI 登録に成功した雑誌の引用数など資料を集め次回編集委員会で報告できる予定。

2. 温暖化フォーラム報告

広田理事よりフォーラム開催について報告があった。

3. 永年功労会員表彰審査委員の交代について（資料 3）

吉本庶務理事より経緯の報告があった。終身会費制度の導入により今後はこのような事案はなくなると考えられるが、終身会費の周知や自動通知について検討する必要あり。

4. 「センシング・モニタリング技術研究部会」の代表者交代について

青木会員から宮田明会員に交代となった旨報告があった。

5. 2011 年度表彰関係事務の開始について

菅谷表彰担当理事の代理で、菅野総務理事より報告があった。例年より約1ヶ月遅れており、賞牌の切り替えの件もあるため、今後速やかに進める。

6. 日本地球惑星科学連合共同声明について（資料4）

メール会議で審議済みにつき、声明最終版が岡田会長より報告された。

7. 日本農学会アンケートについて（資料5）

吉本庶務理事より、日本農学会による東日本大震災への取り組みに関するアンケート集計結果と日本農学会の今後の活動について、報告された。

8. 学会賞の賞牌について

五十嵐会計理事より経過報告された。藤井先生よりブロンズ製の完成品5個を受領したが、額が含まれていなかったため、額代、額への嵌め込み代として追加支出が必要。見積もりを待って追加支出を支払う方向で進めることが承認された。今後の単価と数量の見直しについて、ある程度確定しておく必要があるとの意見が出された。

9. 2012年度大阪大会の進捗状況（資料6）

町村理事より、2012年度全国大会およびISAM2012の実施要領、スケジュール、各種企画内容について報告された。公開シンポジウムのテーマの「脱温暖化」を科学的に正しい厳密な表現に修正した方がよいのでは等の意見が出された。海外参加者の参加費徴収方法や、Web上の国内外参加者の申し込みフォームについて問題点が挙げられ、改善を検討することとなった。

10. 2013年度大会について（資料7）

皆巳理事より、北陸支部での2013年度大会開催について経過報告された。メール協議により北陸支部で引き受ける方向で決まったことや、日程・会場、業務分担について開催概要案が報告された。学会等開催助成の申請や予算額について、これまでの全国大会事務局の実績を教えてほしいとの要望が出された。

11. CIGR国際シンポジウムについて（資料8）

岡田会長よりCIGR国際シンポジウムの農業気象学会主催の企画について事後報告された。

12. 日本農学賞受賞候補者の推薦について

日本農学会より平成24年度日本農学賞授賞候補者の推薦の依頼があり、学会ホームページに掲載した。学会締切は10月25日。

13. その他

1) 協賛・後援等 (資料 9)

協賛 1 件：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会
日本学術会議公開シンポジウム「植物工場における基盤技術の最新動向」
(2011 年 9 月 21 日) (水)、タワーホール船堀)

2) センサエキスポジャパン 2011 での要旨集販売について

青木理事より 10 月 11～14 日に開催されるセンサエキスポジャパン 2011 において、学会の講演要旨集のバックナンバーの配布と販売を行ってはどうかとの提案があり、吉本庶務理事より過去の要旨集数冊ずつを青木理事に発送することとなった。

[審議事項]

1. 終身会費制度の細則について (資料 10)

五十嵐理事より細則修正案が出された。終身会員という区分はなく文言の整合性に問題があったため細則を修正し、その他微修正の上承認された。また、終身会費払込書フォーム案が示された。

終身会費の会員の継続意向確認方法として、受領葉書を同封するなどの案が出された。会員への周知について、ホームページ掲載の他、ダイレクトメールなども検討する。申請状況をみて、自分が基準に達したかどうか会員にわかるよう自動的に通知するしくみを検討することとなった。

2. 2012 年度フェデレーション会議について (資料 11)

小林委員より第 22 回フェデレーション会議について報告された。2012 年度の宇都宮大会の実行委員については本條会員、横山庶務理事に依頼し承諾済みである。

3. 学会の法人化について (資料 12)

富士原理事に代わり菅野総務理事より法人化に関する調査・検討の状況が報告された。法人化のメリット・デメリット、法人化に係る事務作業経費の見積について報告された。次回理事会で講師として専門家による説明会の場を設けること、講師には謝金と交通費を支払うことについて、承認された。

4. 大阪 ISAM2012 での国際共同セッションおよび日中韓協力について (資料 13)

小林副会長より中国、韓国側との意見交換状況が報告された。

Journal of Agricultural Meteorology (JAM) の国際誌化について、中国側としては協力できるもののジャーナル名がそのままでは受け入れ難い、との意見である。WMO 農業気象委員会関連では引き続き意見交換を行う。

韓国とは、日韓共催の ISAM2012 オーガナイズドセッションの成果を論文共同発行し、共同発行がわかるよう明示するものとする。編集体制としては、ゲストエディトリアルボードを別途設置することはせず、JAM の特別編集委員として韓国農林気象学会(KSAFM) から数名参加するものとする。その他、KSAFM メンバーが第 1 著者の論文は農業気象学会員が第 1 著者であるのと同じ掲載料とすることなどが承認され、必要な投稿規程等の修正について次回理事会で決定できるよう、至急検討することとなった。

5. 事務作業の外注化による負担軽減について (資料 14)

総務、庶務、会計、編集各理事の仕事一覧が示された。仕分けを行うとともに優先順位をつけ、外注が可能な仕事を再整理することとなった。9 月末までにメール会議で調整の上、養賢堂に見積もりを依頼する。

6. その他

- 1)次期役員を選出について、後任の人選を始める必要がある。
- 2)学会ポスター作成作業が遅れており、早急に進めることとなった。
- 3)最近の大会で行われなくなったベストポスター賞を、大阪大会 ISAM2012 で復活させることについて、スケジュール等を含めて大会事務局で検討することとなった。
- 4)次回理事会は 12 月 8 日 (木) で調整を開始。東大の予定。